

高木復興大臣政務官ほか
「交流ミーティング in 東京～『若者 DAY』」
ぶら下がり会見録

(平成28年6月12日(日) 15:45～15:50 於) 3331 Arts Chiyoda)

1. 質疑応答

(問) まず今日参加された御所感を伺えますでしょうか。

(答) 本当に若者のパワーや音楽のパワーを感じました。本当に生徒の皆さんの発表だとか、作文も読ませていただきましたけれども、これからの東北に何ができるか、復興に何ができるかというのを本当に真剣に考えて、自分の意見をはっきり持っている方ばかりだったので、本当に感動しました。

(問) 今回、このようなイベントは初めての開催でしたけれども、引き続きどのような展開をお考えでしょうか。

(答) 今回は5年目のある意味で節目、復興期間10年の折り返し地点ということで、この東北復興月間、そして「若者DAY」を開催させていただきました。来年以降についてはこれからも風化対策ということが大事ですので、いろいろと検討していきたいと思っております。

(問) 今日、福島県の葛尾村で避難区域がおおむね解除されましたけれども、解除されたことによって今後の課題というの、また新たな問題があると思うんですけれども、そのあたり如何でしょうか。

(答) 解除を含めて復興が進むと、ある新しいステージになると、いろいろな新たな課題が出てくるので、それにはしっかりと地元の声に耳を傾けながら進めていきたいと思っています。

(問) AKB(チーム8)さんをお願いします。今回「新しい東北」を創る人々というのがテーマでしたが、これから新しい東北を創っていくためにどんなことをしていきたいかというのを一言いただければ。

(答) やっぱり私たちにできるのは音楽を届けることで、歌とダンスで皆さんに笑顔とパワーをお届けしたいと思っています。

(問) AKBの佐藤さんに伺います。今日、参加された御感想からよろしいでしょうか。

(答) 私は今まで自分がAKB48の一員として何ができるんだろうと考えたときに、歌って踊ってという活動をして皆さんに笑顔を届けることだって思っていたんですけれども、自分は実際、震災を経験していて、そのことを将来、いろいろな人に伝えていくことも私にできることのひとつなんだということが今日改めてわかって、私にもっとできること、これからもたくさんしていきたいなと思っていました。

(問) 東日本大震災のときもそうなんですけれども、熊本の地震も4

月に発生して2カ月たちましたけれども、皆さん、AKBの3人、それぞれの地域で被災されましたが、地震から2カ月過ぎたときのことをちょっと思い出してもらって、そのときどういうことが必要で、何をしたかったとか、という点を教えていただけますか。

(答) 私は宮城県で被災をしたんですけれども、2カ月というと、やっぱり少しずつ復興も進んできて、その発生当時よりはやっぱり周囲の方の危機感というか、そういうのは少しずつ大丈夫なのかなという、気持ちが変わっていくとは思うんですよ。でも、やっぱり2カ月といっても、本当に被災地、直接被害を受けたところは、実際はまだいろいろ役所の働きだったりとか、行き届いていないところがやっぱりあるのが現実だったので、やっぱりそういうところがあるということを忘れないでほしいですし、私も九州の方から支援をしていただいたように、やっぱりお互い支え合って、私たち、今度は東北の側から助けてあげたりとか、そういう、お互い支え合って忘れないでいくことが、やっぱりその風化を防ぐことにもつながるんだろうなと思っております。

(以 上)